

令和7年度

教職課程

自己点検評価報告書

長崎国際大学

令和8年3月

## 長崎国際大学 教職課程認定学部・学科一覧

- ・人間社会学部（国際観光学科、社会福祉学科）
- ・健康管理学部（健康栄養学科）
- ・人間社会学研究科（観光学専攻、社会福祉学専攻）
- ・健康管理学研究科（健康栄養学専攻）

## 大学としての全体評価

長崎国際大学（以下、本学）は2000（平成12）年4月の開学と同時に教職課程を設置し、「高い知性と豊かな教養」、「優れた徳性と品格」、「たくましい意思と健康な身体」を備えた人材を育成するという学校法人九州文化学園の建学の精神に則り、建学の理念である「人間尊重」を基本理念として教員養成を行ってきた。各学部学科において養成する教員像を明確に定め、「専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性」を備え、「地域から愛され、地域社会に貢献できる」だけでなく、「異文化を理解し国際社会に貢献できる」教員を社会に送り出すべく、教職課程としての教育の質保証と改善に努めてきたところである。

これまでに多くの教育職員免許状取得者を輩出し、そのうち一定数の卒業生が、長崎県のみならず九州各地の小中高等学校、特別支援学校に就職して教員としてのキャリアを形成しつつある。自己点検評価とその結果の公表が義務付けられた令和4年以降の4年間で、79名の教育職員免許状取得者（免許状総数は139）を輩出しており、教員養成校としての本学の社会的責務は着実に果たされていると評価してよいであろう。

学校教育の現状は厳しさを増しており、専門的知識・技能のみならず高い人格性を備えた教員の配属が喫緊の課題となっている。本学は、教員養成を担う高等教育機関として地域社会に貢献すべく、今後とも自己点検評価を定期的実施して教職課程の質向上に努めていく所存である。

長崎国際大学

学長 中村 誠司

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	7
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	7
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	13
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	20
III	総合評価	26
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	29
V	現況基礎データ一覧	30

## I 教職課程の現況及び特色

### 1 現況

- (1) 大学名：長崎国際大学
- (2) 教職課程の認定を受けている学部名：
  - 人間社会学部 国際観光学科・社会福祉学科
  - 健康管理学部 健康栄養学科
  - 人間社会学研究科 観光学専攻・社会福祉学専攻
  - 健康管理学研究科 健康栄養学専攻
- (3) 所在地：長崎県佐世保市ハウステンボス町 2825-7
- (4) 学生数及び教員数

(令和7年5月1日現在)

#### 学生数：

人間社会学部 国際観光学科 教職課程履修者 137名／学科全体 952名  
人間社会学部 社会福祉学科 教職課程履修者 3名／学科全体 206名  
健康管理学部 健康栄養学科 教職課程履修者 17名／学科全体 247名  
人間社会学研究科 観光学専攻 教職課程履修者 1名／専攻全体 20名  
人間社会学研究科 社会福祉学専攻 教職課程履修者 0名／専攻全体 9名  
健康管理学研究科 健康栄養学専攻 教職課程履修者 0名／専攻全体 4名

#### 教員数：

人間社会学部 国際観光学科 教職科目担当教員 9名／学科全体 32名  
人間社会学部 社会福祉学科 教職科目担当教員 3名／学科全体 16名  
健康管理学部 健康栄養学科 教職科目担当教員 2名／学科全体 20名

※「教職科目担当教員」には「教科に関する専門的事項」のみを担当する教員は含まない。

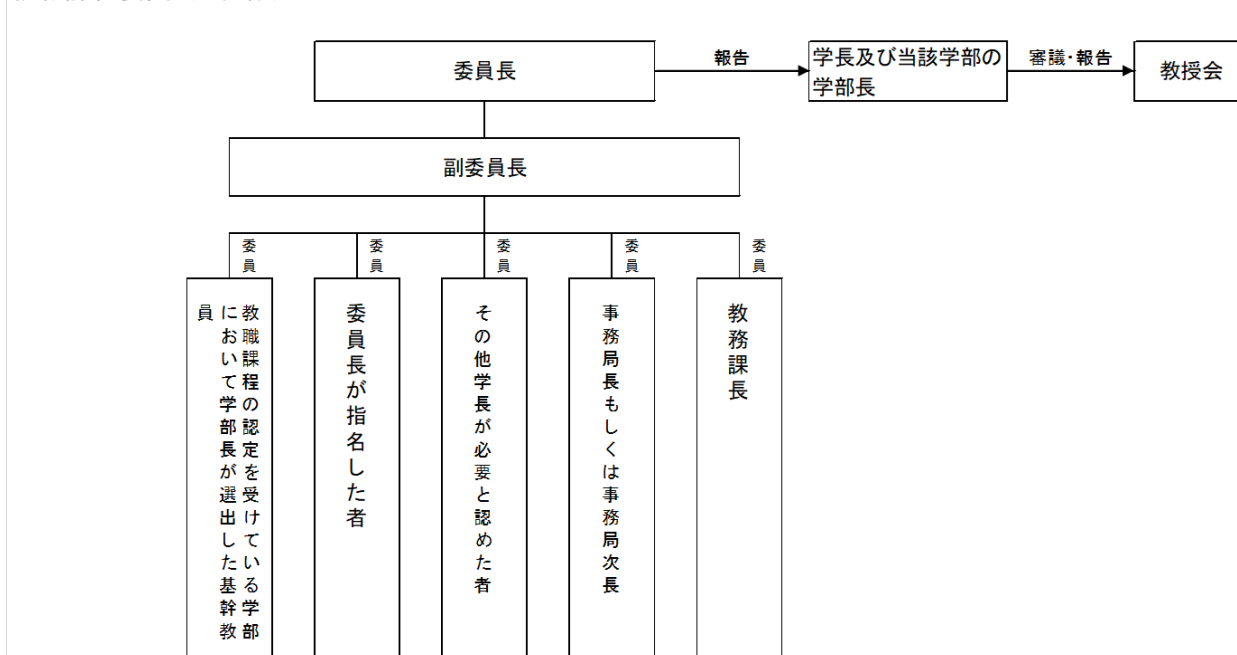
(5) 教職課程の概要

① 課程認定を受けている教職課程

学 科	免 許 の 種 類
国際観光学科	中学校教諭一種免許状（社会） 中学校教諭一種免許状（英語） 中学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 高等学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（保健体育）
社会福祉学科	高等学校教諭一種免許状（福祉）
健康栄養学科	栄養教諭一種免許状
観光学専攻	中学校教諭専修免許状（社会） 高等学校教諭専修免許状（地理歴史）
社会福祉学専攻	高等学校教諭専修免許状（福祉）
健康栄養学専攻	栄養教諭専修免許状

② 教員養成に係る組織体制（「長崎国際大学教職課程委員会規程」より作成）

教職課程委員会 組織図



## ③ 教員免許状の取得状況（過去3年：2022～2024年度）

年度	中一種			高一種				栄養 一種	専修免				計	取得 者数
	社会	英語	保体	地歴	英語	保体	福祉		社会	地歴	福祉	栄養		
2022	1	1	6	2	1	6		5					22	13
2023	3	3	9	3	3	9	2	4					36	22
2024	4	1	6	7	1	6	2	1					28	15
計	8	5	21	12	5	21	4	10	0	0	0	0	86	50

## ④ 教員免許状取得者の就職状況（過去3年：2022～2024年度）

免許種 校種	社会	地歴	英語	保健体育	福祉	栄養	専修免
小学校						1	
中学校	1			6			
小中一貫							
高等学校		2	2	5			
特別支援学校		1		1			
計	1	3	2	12	0	1	0

※非常勤講師として採用された者を含む。

## 2 特色

## (1) 大学としての教員養成に対する理念、養成する教員像

本学の教職課程では、学校法人九州文化学園の建学の精神に則り、「高い知性と豊かな教養」、「優れた徳性と品格」、「たくましい意思と健康な身体」の備わった教員を養成すると共に、長崎国際大学の建学の理念である「人間尊重」を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探求・実現、並びに文化と健康を大切にする社会の建設に貢献する教員の養成を目的としている。

また本学では、建学の理念に加えて教育の目標を、「1. 専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成。2. 地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成。3. 異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成。」のように定め、学生各自の知的能力と人格の向上、並びに将来の社会での活動に資する教育を実施している。このことは、教員養成においても同様である。

## (2) 認定課程を有する学科等としての教員養成に対する理念、養成する教員像

本学の教員養成に対する理念、設置の趣旨を踏まえ、各学科等においては、下記のように教員養成に対する理念、養成する教員像を定めている。

人間社会学部国際観光学科（中一種免（社会））

国際観光学科の中一種免（社会）では、特に観光という視点から学んだ経済、国際情勢、歴史、地理、まちづくりなどに対する深い理解をベースに、ホスピタリティ精神を活かし、様々な人と関わっていくことができる思いやりの心をもった教員を養成していく。

人間社会学部国際観光学科（中一種免（英語））

国際観光学科の中一種免（英語）では、特に観光という視点から学んだ英語運用能力を活かし、実践的コミュニケーション能力を養う指導ができる教員を養成していく。また、経済、国際情勢、歴史、地理などに対する理解をベースに、ホスピタリティ精神を活かし、様々な人と関わっていくことができる思いやりの心をもった教員を養成していく。

人間社会学部国際観光学科（中一種免（保健体育））

国際観光学科の中一種免（保健体育）では、人、社会に対して深い理解があり、身体の教育、身体を通しての教育を率先して行いうる人材の育成を図るとともに、本学で学ぶホスピタリティ精神を活かし、様々な人と関わっていくことができる思いやりの心をもった教員を養成していく。このような人材を社会に輩出することによって、スポーツを通じて地域社会に貢献できる中学校の牽引者となることを期待する。

人間社会学部国際観光学科（高一種免（地理歴史））

国際観光学科の高一種免（地理歴史）では、「観光研修」や「専門演習」などの学科専門科目において、野外学習を積極的に取り入れ、観光という視点から学んだ経済、国際情勢、まちづくりなどに対する深い理解をベースに、地理歴史に関する専門性の高い教育のできる人材の育成を図るとともに、ホスピタリティ精神を活かし、様々な人と関わっていくことができる思いやりの心をもった教員を養成していく。

人間社会学部国際観光学科（高一種免（英語））

国際観光学科の高一種免（英語）では、特に観光という視点から学んだ英語運用能力を活かし、実践的コミュニケーション能力を養う指導ができる教員を養成していく。また、経済、国際情勢、歴史、地理などに対する理解をベースに、ホスピタリティ精神を活かし、様々な人と関わっていくことができる思いやりの心をもった教員を養成していく。

人間社会学部国際観光学科（高一種免（保健体育））

国際観光学科の高一種免（保健体育）では、人、社会に対して深い理解があり、身体の教育、身体を通しての教育を率先して行いうる人材の育成を図るとともに、本学で学ぶホスピタリティ精神を活かし、様々な人と関わっていくことができる思いやりの心をもった

教員を養成していく。このような人材を社会に輩出することによって、スポーツを通じて地域社会に貢献できる高等学校の牽引者となることを期待する。

#### 人間社会学部社会福祉学科（高一種免（福祉））

社会福祉学科の高一種免（福祉）では、特に福祉教育によって醸成された豊かな人間力、福祉マインドを持つ市民としての自己を確立したうえで、介護技術等の高度な専門技術を身につけた、「思いやり」があり、「弱者の視点」を理解することができる教員を養成していく。

#### 健康管理学部健康栄養学科（栄一種免）

健康栄養学科では、「食と医学を礎とした栄養学」を基本理念とした教育を行い、生涯を通じた健康づくりの観点から食生活の果たす重要な役割を理解し、対象者に対して適切で心の通った指導を実践するための豊かな人間性を持った教員を養成していく。

#### 人間社会学研究科観光学専攻（中専免（社会））

地理歴史や公民など社会科の各分野に広く関わる観光学の学習・研究を通じて、社会科全般の包括的かつ体系的な知識を獲得し、中学校における社会科の教育において指導的役割を担い得る教員の育成を図るとともに、学際的な領域である観光の中に立ち現われてくる地理・歴史・公民に関する具体的・個別的事象の研究をとおして、社会を体系的に把握し、総合的な思考・判断力を身につけ、諸課題に柔軟に対応して分かりやすい授業展開を行うことのできる資質を備えた教員を養成していく。

#### 人間社会学研究科観光学専攻（高専免（地理歴史））

国際社会や地域社会における地理的・歴史的事象を幅広く学び、事象の観察力や思考力を高度に身につけた教員の育成を図るとともに、学際的な学問分野である観光学の学習・研究を通じて、事象を大局的・客観的に分析し、個性や地域性並びに普遍性を見出す能力と物事を筋道立てて考える力を養うことで、高等学校における学校運営や生徒の学習・生活指導等の指導的役割を担う教員を養成していく。

#### 人間社会学研究科社会福祉学専攻（高専免（福祉））

地域社会において様々なかたちで生起する諸問題に目を向け、とくに深刻な生活問題に直面している当事者のニーズ把握および具体的な自立支援のあり方を学ぶことを通じて、高いレベルのソーシャルワーク実践能力を身につけた教員の育成を図るとともに、社会福祉の現場で働く質の高い人材の育成を目指す高等学校福祉科の教育現場において、大きな貢献をなす豊かなコミュニケーション能力と高いレベルの問題把握能力および問題解決能力を身につけた教員を養成していく。

#### 健康管理学研究科健康栄養学専攻（栄教専免）

「人間の健康づくり」を主たる教育・研究の対象とし、成長期にある人間の健康管理に

関連する諸問題の究明と健康づくりの向上に資する、より高度で専門的・包括的な知識・技能を有し、いたわり・思いやりの心を持った教員の育成を図るとともに、人間として心身ともに成長期にある児童・生徒の発育における栄養状態の管理・指導や栄養教育における実践的で高度な栄養学に関する知識と児童・生徒の学習・生活指導に必要な高度な教育実践力を身につけた教員を養成していく。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 〔現状説明〕

本学では、Iの「2 特色」で述べた通り、学校法人九州文化学園の建学の精神である「高い知性と豊かな教養」、「優れた徳性と品格」、「たくましい意思と健康な身体」に則り、かつ長崎国際大学の建学の理念である「人間尊重」を教育目的として実現するために設定された各学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、教職課程教育の目的・目標を定めている。また免許種ごとに、教員養成に対する理念及び養成する教員像、ならびに半期ごとの各年次における到達目標を定めている。

上記の目的・目標の実現に向け、教職課程の科目を担当する教員は、教職課程委員会で決定された教育の方針や内容を理解し、教員養成のための教育を計画的に実施している。教職課程委員会に属さない、各学科の教科に関する専門的事項を担当する教員には、大学ホームページや各学科の会議等を通して、また学生に対しては、eポートフォリオのmanabaのコンテンツや毎年4月に実施する教職課程オリエンテーションでの講話などを通じて、本学の教職課程教育の目的・目標を周知し、共有している。ただし、専門的事項のみを担当する教員への周知や、その他の教員の教職課程に関する理解については課題も見られる。

##### 【資料 1-1-1】 【資料 1-1-2】

学科ごとでは、人間社会学部国際観光学科においては、学科としてのディプロマ・ポリシーを踏まえ、教科の専門性や特性を十分に修得した上で「ホスピタリティ精神を活かし、様々な人と関わっていくことができる思いやりの心をもった教員」を育成すべく、Iの「2 特色」で述べた通り、養成する教員像が教科ごとに示されている。特に、観光という視点からの経済、国際情勢、歴史、地理などに対する理解や、実践的コミュニケーション能力の指導、地域社会への貢献などが国際観光学科では重視されている。

人間社会学部社会福祉学科においては、福祉科としての専門性や特性を十分に修得した上で「福祉教育によって醸成された豊かな人間力、福祉マインドを持つ市民としての自己を確立したうえで、介護技術等の高度な専門技術を身につけた、『思いやり』があり、『弱者の視点』を理解することができる教員」の育成が目指されている。【資料 1-1-1】

健康管理学部健康栄養学科においては、学科としてのディプロマ・ポリシーを踏まえて、栄養教育の専門性や特性を十分に修得した上で「生涯を通じた健康づくりの観点から食生活の果たす重要な役割を理解し、対象者に対して適切で心の通った指導を実践するための

豊かな人間性を持った教員」を育成すべく、養成する教員像が示されている。【資料1-1-1】

研究科（大学院）では、学部の学修を基盤とし、地域に根差した教育研究を基本に、社会が求める高度専門職業人あるいは研究者の養成を目的として設置された人間社会学研究科ならびに健康管理学研究科において、観光と福祉、栄養の各専攻においてそれぞれの免許種の専修免許状を取得することが可能となっている。特に、高度な専門的知識と、観察力や思考力、判断力や問題解決能力、また高度な教育実践力を身につけた教員の育成が研究科では目指されている。【資料1-1-3】

#### 【長所・特色】

本学の教職課程教育の目的・目標は、学校法人九州文化学園の建学の精神と本学の建学の理念、また「1. 専門的知識と技能に加えて、知性、感性、人間性の備わった人材の育成。2. 地域から愛され、地域社会に貢献できる人材の育成。3. 異文化を理解し国際社会に貢献できる人材の育成。」という本学の教育目標から導き出されており、それらが教職課程を担当する教員、職員、学生にも共有され、教育がなされている。特に、初年次教育の必修科目として開設されている「茶道文化」は、本学のホスピタリティを体現するものであり、同じ目線で向き合い、互いを敬いながら支え合うことや、茶道を通じて生まれるしなやかな所作と品格、また茶道の基本となる「座」での学修は、本学の教育理念に基づく人間教育の実践的な場となっている。これらのことは、教員養成においても同様であり、ホスピタリティ精神を活かし、様々な人と関わっていくことができる思いやりをもった人材、教員の養成が本学の長所であり特色でもある。【資料1-1-4】【資料1-1-5】

加えて本学では、学士課程で修得すべき「ホスピタリティ」を5つの能力（「専門力」「情報収集、分析力」「コミュニケーション力」「協働・課題解決力」「多様性理解力」）として整理し、学生にはその能力を「ホスピタリティ・ルーブリック」という指標を用いて学期ごとに自己評価させることで、学生の学士課程における学修成果の可視化が図られている。この5つの能力は教職課程も含め、全ての授業科目のシラバスの「学生の授業における到達目標」とも関連付けられており、全学的に基本的な教育理念の共有が図られている点も特色として挙げられる。【資料1-1-6】

#### 【取り組み上の課題】

教職課程教育の目的・目標、ならびに養成する教員像については、教職課程委員会内での共有はできている。また、大学全体の基本的な教育理念や教育目的・目標は、教職課程を担当する教員や職員、学生の間にも浸透している。しかし、免許種ごとの教員養成に対する理念や養成する教員像、ならびに半期ごとの各年次における到達目標については、教科に関する専門的事項のみを担当する教員や非常勤講師との共有が十分とは言えない。学

生に関しても、オリエンテーション時の説明と manaba のコンテンツへの掲示に加え、年度始めに行われる履修カルテの入力時などにおいても参照させていく必要がある。加えて『履修の手引』にも、免許種ごとの教員養成に対する理念や養成する教員像が記載されていないため、加筆が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

【資料1-1-1】: 大学ホームページ 学部・学科 教職課程 教員養成の目標・達成のための計画

【資料1-1-2】: manaba【教職課程 2024 年度入学生】コンテンツ「到達目標・カリキュラム等」

【資料1-1-3】: 大学ホームページ 大学院 教職課程 教員養成の目標

【資料1-1-4】: 『履修の手引 2024（令和6）年度 長崎国際大学〔人間社会学部〕国際観光学科／社会福祉学科』

【資料1-1-5】: 『履修の手引 2024（令和6）年度 長崎国際大学〔健康管理学部〕』

【資料1-1-6】: 「R7年度シラバス作成の手引」

## 基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

### 〔現状説明〕

本学では、全学の委員会組織である教職課程委員会が主として教職課程運営を担っている。教職課程委員会では、教職課程認定基準を踏まえた必要専任教員数の確認など法令由来事項の確認と点検を行う他、教職課程カリキュラムの策定と実施、また教育実習生・介護等体験の派遣計画の策定等、学生指導も担っている。加えて、議決事項については学長ならびに各学部長に報告し、それらのうち必要な事項については全学教授会、学部教授会の審議事項として提案するなど、全学的に連携をとりながら教職課程運営を行っている。教職課程委員会は、教職課程を有する学部から選出された専任教員と、事務職員等にて構成されている。2024年度の教職課程委員会は、各学部選出の教員10名(教職経験者含む)、事務職員2名によって構成されている。なお、例年、メール審議も含め7回から8回程度の教職課程委員会を開催している(実績:2023年度7回、2024年度8回)。教職課程運営に関わる事務や教職学生の手続き等の対応は、主に教務課の事務職員が担当しており、日頃より教職員間の連携を密にし、教職協働で教職課程運営にあたっている。【資料1－2－1】

施設設備の点では、各種体育施設や介護実習室、調理加工実習室や栄養教育論実習室など、各教科の教員養成に係る施設はもとより、電子黒板やタブレット端末およびWi-Fi環境の充実など、時代に則した教員養成のための学習環境が保たれており、ICTを取り入れた模擬授業の実施を可能にしている。【資料1－2－2】【資料1－2－3】

教職課程の質的向上については、全学的に每期実施している授業評価アンケートの結果や卒業生アンケート、また教育実習後の実習生の報告文(「6.大学の講義(教職に関係する科目)について」)などにより学生の意見を聴取し、各教員が授業改善に努めている。また、教職課程を担当する教員には、本学の教育基盤センターが刊行する『教育基盤センター紀要』への執筆を推奨しており、毎年数本の論考を掲載している。【資料1－2－4】【資料1－2－5】

その他、学内の学生支援および教育改善に関するFD/SDへの参加や、学外で実施される講演会や研修会、全国私立大学教職課程協議会や九州地区教職課程協議会への参加などを通じて、教職課程運営に関する情報収集や、大学における教員養成を取り巻く状況や教育現場で必要とされる教師像について、見識を深めている。

また教員養成に係る情報は、本学ホームページにおいて公開し、毎年更新している(「教員養成の目標・達成のための計画」「カリキュラム・シラバス」「教員免許状取得状況・就職状況」「教職指導体制・教員紹介」「教員養成の質の向上に係る取り組み」等)。【資料1－1－1】【資料1－1－3】

**〔長所・特色〕**

本学の教職課程の組織的特色として、教職課程委員会によるきめ細やかな学生指導が挙げられる。教職課程委員会は、教職課程の認定を受けている各学部に所属する、主に「教育の基礎的理解に関する科目等」を担当する教員と、「教科及び教科の指導法に関する科目」を担当する教員によって構成されており、学科との連携を図りながら、学生の履修状況等の確認や学生指導に関わる情報交換を行っている。なお、教職課程オリエンテーションや履修カルテ入力会、教育実習、介護等体験といった活動については、事務職員も含めた教職課程委員会のメンバーを中心に、学科や学部を超えて教職学生の指導にあたっている。なお、基準項目 3-2 でも述べるが、教育実習の調整や実習期間中の巡回指導については、近隣校ならびに佐世保市教育委員会と教職課程委員会が連携、調整して、実施している。

施設設備の点では、図書館や学内のラーニングコモンズに、教職および教員採用試験関連の書籍を配置している他、学生の要望に応じて、模擬授業や教員採用試験に向けた準備のために教育施設を開放するなどしている。また 2020 年度より学内の Wi-Fi 環境の整備ならびに強化を実施し、全教室で Wi-Fi が利用可能となっている。

**〔取り組み上の課題〕**

本学教職課程の組織について大きな課題はないが、一部の教職科目について、非常勤講師対応が続いている点が課題として挙げられる。特に、中学校社会科の教科教育法については、専任教員の退職により複数科目が非常勤講師による開講となっており、教育実習の巡回など学生指導の面で課題がある。

施設設備の点では、中高保健体育の教員養成の観点からいくつか課題がある。まず、本学には水泳指導のためのプールがなく、現状、近隣のプール施設を活用することで問題の解消に努めている。また、グラウンドはあるものの、学習指導要領において取り扱うべき種目となっている陸上競技については、レーンや幅跳びの踏切板などの整備が不十分であり、指導に支障が出ている。総じて言えば、本学は一つしかない体育館の使用頻度が極端に高く、体育館天井・床の劣化も進み、空調設備も整っていないため、施設の新設か、既存の施設の修繕修復に早急に務める必要がある。

加えて、学生へのアンケート等、教職課程の質向上に向けた取り組みについては、教職課程独自の取り組みとはなっておらず、現職教員となっている卒業生からの意見聴取やアンケート、教育委員会等へのアンケートは実施できていない。

**<根拠となる資料・データ等>**

【資料 1-2-1】：教職課程委員会規定

【資料 1-2-2】：大学ホームページ 大学総合 キャンパスマップ・施設紹介

【資料 1 - 2 - 3】: 大学ホームページ 大学総合 情報公開 令和 6 年度の「教育研究上の基礎的な情報」についての公表資料

【資料 1 - 2 - 4】: 『令和 6 年度 教育実習を終えての報告文』

【資料 1 - 2 - 5】: 『長崎国際大学 教育基盤センター紀要』第 1 巻(2017)～第 8 巻(2025)

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

## 基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

## 〔現状説明〕

まず、本学の教職課程の免許申請数および登録者数から現状を示す。免許申請数は、過去5年間で160件92名と、平均して年20名弱となっている。その内訳は、免許申請者数のおよそ半数を中高保健体育が占めている。また、2020年度、2021年度入学生の学年別登録者数を見ると、1年次には30名から40名が教職課程に登録しているものの、その数は年次進行に伴い逓減し、4年次には1年次登録者数の5割から6割となっている。そして、履修辞退勧告も含めた教職課程の途中辞退に関しても、中高保健体育が、中学社会や高校地歴、中高英語、福祉および栄養と比べ、突出して多くなっているという現状がある。なお、2022年度以降の入学生の1年次の登録者数はいずれも50名を超えており、本学の教職課程登録者数は増加傾向にある。【表2-1-1】【表2-1-2】

【表2-1-1】過去5年間の年度別免許申請数

申請年度		2020	2021	2022	2023	2024	合計
学校種・教科等							
中学校	社会	3	4	1	3	4	15
高等学校	地理歴史	3	5	2	3	7	20
中学校	保健体育	7	11	6	9	6	39
高等学校	保健体育	7	11	6	9	6	39
中学校	英語	3	3	1	3	1	11
高校	英語	3	3	1	3	1	11
高校	福祉	2	1	0	2	2	7
栄養	栄養教諭	5	3	5	4	1	18
申請数		33	41	22	36	28	160
申請学生数		20	22	13	22	15	92

※留学等による過年度取得者については随時追加

【表 2 - 1 - 2】 学年別登録者数 (2020・2021 年度入学生) (単位: 名)

入学年度	学校種等	教科等	1 年	2 年	3 年	4 年
2020	中学校	社会	4	3	3	3
	高等学校	地理歴史	6	5	4	4
	中学校	保健体育	19	19	11	11
	高等学校	保健体育	20	20	11	11
	中学校	英語	3	5	4	3
	高等学校	英語	2	5	5	4
	高等学校	福祉	2	3	4	3
	栄養	栄養教諭	5	6	5	5
	合計 (登録学生数)			39	41	29
2021	中学校	社会	6	7	4	4
	高等学校	地理歴史	9	10	8	7
	中学校	保健体育	16	11	5	5 (6)
	高等学校	保健体育	16	11	5	5 (6)
	中学校	英語	0	0	0	0
	高等学校	英語	0	0	0	0 (1)
	高等学校	福祉	1	1	1	1 (2)
	栄養	栄養教諭	3	3	2	1
	合計 (登録学生数)			30	22	14

※留学等による過年度取得者については随時追加 (2021 の 4 年括弧内は卒業延期生を含む数字)

※登録者数は各年度 4 月時点

上記の現状を踏まえ、教職を担うべき適切な学生の確保については、まず、いずれの教科も、本学で教員免許が取得できることを、オープンキャンパスやホームページなど様々な広報活動を通じて、高校生や保護者、高等学校教員に周知している。また在學生に対しても、教職課程オリエンテーションや教職関連科目の授業等において教職の魅力を伝えるなど、教職を担うべき学生の確保に向けて尽力している。

次に教職を担うべき適切な学生の育成に関する取り組みとしては、まず「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程を履修、継続するための基準を設定している。具体的には、教職課程委員会において、半期ごとに対象科目のGPAによる審査の場を設け、1年後期以降、対象科目のGPA値が2.0未満の学生に対しては「警告」、二期連続で「警告」となった場合は、教職課程委員会での協議を経て履修中止を本人に「勧告」している。なお、この基準については、毎年4月に行われる教職課程オリエンテーションや『履修の手引』において学生に周知し、半期ごとのGPA審査を、自己の適性と将来計画とを熟慮検討させる機会としている。【資料1-1-4】【資料1-1-5】

加えて、年度始めには（1年生は後期始め）、教職課程に登録する全学生に対して履修カルテ入力説明会を実施し、教員免許状取得に必要な単位の取得状況を確認するとともに、教員に必要な資質能力の指標（「学校教育についての理解」「子どもについての理解」「他者との協力」「コミュニケーション」「教科・教育課程に関する基礎的知識・技能」「教育実践」「課題探究」）の各項目に沿って、学生が自身の資質能力の進捗を確認・評価し、自身の課題や強みについて振り返る機会を設けている。また、学生が記入した履修カルテについては、教職課程委員会の教員が毎年度末にコメントを返し、学生一人ひとりの教師としての成長を把握している。【資料2-1-3】

#### 〔長所・特色〕

教職を担うべき適切な学生の育成という観点での本学の長所は2点ある。1点目は、学生の実態把握と個別対応の充実である。本学では、学生の履修カルテの作成と教員の点検を通して、学生と教員とが目標や課題の共有を行い、教職科目を担当する各教員が授業の特性を踏まえつつ、学生に教員としての自分の在り方を考える機会を与えるようにしている。また、履修カルテ内の項目「教職を目指す上で克服すべきと考えている自己の課題や伸ばしていきたい強み、またそれに対する自己評価」に関しては、学生の課題を改善するための助言を与えたり、教員から見た学生の強みを知らせたりすることで、学生自身が学びの実感を得られるようにしている。加えて、定期的開催する教職課程委員会においても、教職課程履修者一覧を用いて学生の実態把握に努め、適切な支援や助言等を早期に行えるよう、教職課程委員会に属する教職員同士の協力体制を整えている。

2点目は、履修カルテの内容の充実である。履修カルテは、上述したように、各シートや項目への入力作業を通して、自身の教職課程における学びを振り返り、課題や強みを明確にできる構成となっている。また、教職に関する学外活動やボランティア活動の経験についても記録を残せる欄を設け、学内の学びに終始するのではなく、「積極的に人と関わろうとしたか」「人間性を豊かにする機会を得ることができたか」など、幅広い視点で自身を振り返りことができる内容となっている。特に、教員に必要な資質能力の項目におけるリーダーチャートでは、各項目及び各学年における自身の評価や課題を俯瞰できるため、学生の学びを促進する重要な手立ての一つとなっている。【資料2-1-3】

#### 【取り組み上の課題】

取り組み上の課題としては、主に3点ある。

1点目は、1年次に教職課程に登録した学生の教員免許状取得率の改善である。学年進行に伴い、教職学生の減少が見られる点がまず課題として挙げられる。2点目は、教職科目における1クラスの適正規模についての枠組みがないことである。近年、一部免許種で教員免許状取得希望者が増加傾向にあることから、本学教職課程における1クラスの適正規模についての指標を明確にする必要がある。3点目は、学部、学科あるいは希望免許種によって、教職課程登録者の人数や基礎学力に差が見られることである。

先に述べたように、人間社会学部においては、社会や地理・歴史、英語の免許状取得の希望者は横ばいである一方、中高保健体育の免許状取得を希望する学生が増加している。そのため、履修者増加に見合った施設や教室等の整備、基礎学力の異なる学生が一斉に受講する共通開設の教職科目の授業運営、また教育実習先の確保などにおいて課題がある。

本学は教職課程独自のAP（アドミッション・ポリシー）を定めていないことから、総じて、各学部において、適切な規模の学生数と、教職を担うにふさわしい学生の確保が課題となっている。教職課程として、教員として求められる専門的知識・技能と、教職の社会的意義と責任に対する自覚を学生にいかに涵養するかが喫緊の課題となっている。

#### <根拠となる資料・データ等>

【資料2-1-1】：教職課程オリエンテーション資料

【資料2-1-2】：長崎国際大学 教育職員免許状取得に関する規程

【資料2-1-3】：長崎国際大学 教職課程 履修カルテ

## 基準項目2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状説明〕

教職へのキャリア支援として、本学ではまず、毎年度始めに実施する教職課程オリエンテーションや履修カルテの入力会において、教職課程委員会の担当教員が、教職をキャリアとして選択することの意義を伝えている。さらに、教職課程オリエンテーションでは、毎年度希望免許種調査を行うことで、個々の学生の教職への意思を確認すると共に、学生の適性に応じた学校種および免許種の免許状取得に向けた指導を行っている。【資料2-1-1】【資料2-2-1】【資料2-2-2】

また日頃の授業においても、学校現場を取り巻く様々な状況や報道等で紹介されている内容について、教育実習の事前指導や、4年次に開講される教職実践演習へのゲストスピーカーの招聘の他、教職経験者が担当する授業などを中心に、教職に関する情報提供や解説を加えるなどしている。さらに、教育実習の実施にあたっては、教育実習前に教科教育法の担当教員や教職課程委員会の担当教員が、指導案作成方法等の事前指導を実施し、学生の不安を軽減するとともに、充実した教育実習となるよう、丁寧に指導している。【資料2-2-3】【資料2-2-4】

この他にも、学生の個々のキャリア意識の向上については、国際観光学科では、大学のオープンキャンパス時に教職のブースを設定し、教職を履修する学生が模擬授業を行う場を設定することで、教職課程で学んだ成果を活かす場面を設けている（実績：毎年度4回実施されるオープンキャンパスでは、毎回3名の学生が模擬授業を実施）。また、保健体育については、保健体育科教育法において担当教員による模擬授業及び、学生自身が模擬授業を実施する体験活動を踏まえ、グループディスカッションを通して「良い保健体育の授業とは何か」を考えさせるなど、保健体育科教員を志望する学生の資質能力の育成に努めている。加えて、県スポーツ振興課や周辺地域と連携し、学生を運動部活動の外部指導員や地域スポーツクラブの短期雇用スタッフとして派遣することで、実際の指導や教育の実践に身をおき、保健体育科教員としての資質能力が育成されるよう支援している。英語については、文法指導や4技能5領域の指導、コミュニケーション活動など個々の指導場面を取り上げ、模擬授業やディスカッションをとおしてより良い指導法の在り方を学生に考えさせるなど、実践力の育成に主眼を置き、英語科教員を志望する学生の指導にあっている。健康栄養学科では、3年次に行う臨地実習で課題として出される「給食の時間」の学習指導案作成に関する個別指導や、教職を履修する学生からの就職に関する個別相談、教員採用試験に向けた模擬面談などを実施している。

教職課程委員会においても、教員採用試験に向けては、学内での説明会の開催や教採対策講座、年4回程度の模擬試験を行っている。教採対策では、オンデマンド型の講座を開

設し、学生の受講を奨励している。模擬試験では、出版社が主催する全国模試を1年生から4年生の希望者を対象に実施し、学生が自身の学習状況を把握できるようにしている。また、教員採用試験に関する情報や倍率、学校推薦や3年次での教員採用試験の情報についても、manaba等で随時提供している。その他、教員採用試験に向けた願書作成や2次試験の面談・模擬授業対策、私立学校教員採用試験や講師登録の指導も個々に行っており、学生の教職への就職を支援している。

大学全体としても、キャリアセンターが運営するWebサイト（NIUキャリアセンターオンライン）に、教職に就いた卒業生からのメッセージ（就活体験談）を掲載し、いつでも閲覧することができるようにしている。【資料2-2-5】

#### 〔長所・特色〕

キャリア支援に関する本学の長所・特色は、学生に対するきめ細やかな指導・支援である。本学では教職課程に登録する学生の数はそれほど多くないが、個々の学生が教職を目指す動機は様々であり、学生が抱えるキャリア選択上の悩みも異なる。個々の学生にきめ細やかに対応し、それぞれが抱えるキャリア選択上の悩み等を、教員が必要に応じて支援している。

#### 〔取り組み上の課題〕

キャリア支援の取り組み上の課題としては、1、2年次の学生のキャリア選択への意欲や適性の把握がある。特に、一部集中講義で開講される教科教育法などの科目においては、学生の適性や意欲の把握が難しい面もある。学年が上がるにつれ、教職課程履修者が半分から3分の1近く減少するという現状からは、教員免許状の取得と教職に就くことへの意欲喚起や意欲継続のための支援も今後必要となる。近年では、教育実習先に本学の卒業生が教員として働いている場合もあり、ロールモデルとしての姿も見られるようになってきている。したがって、意欲喚起や意欲継続のための支援として、現職教員である卒業生を招聘しての講話などの企画が考えられる。また現状では、保健体育の免許状取得希望者が多いことから、教科特性に応じたより一層の支援も必要となる。

最後に、教員採用試験については、近年、自治体毎に異なる方法・内容、時期に実施されるようになってきているため、それらの情報を学生が入手しやすくなるような情報提供の方策が必要となっている。

#### <根拠となる資料・データ等>

【資料2-2-1】：取得希望免許状調査表

【資料2-2-2】：履修カルテの入力手順（履修カルテ入力会説明資料）

【資料2-2-3】：教職実践演習（中・高）シラバス

【資料2-2-4】：教職実践演習（栄養）シラバス

【資料 2 - 2 - 5】: NIU キャリアセンターオンライン (学内者限定)

### 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

#### 基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

##### 〔現状説明〕

本学のカリキュラムは、既に述べてきたように、本学の教育理念を実現するため、人間尊重の精神とホスピタリティの基本的理解を基盤に、人間と社会に対する幅広い視野を獲得した上で、各学科の専門領域についての学びを深める仕組みとなっている。

教職課程においては、本学のカリキュラム・ポリシーと、文部科学省が規定するコアカリキュラムに対応する形でカリキュラムを編成しており、全学的に取り組んでいるアクティブ・ラーニングも全ての教職課程の科目で実施している。シラバスについては、教職課程委員会においてその体裁・内容をチェックし、内容については、再課程認定の際に提出して認められたものを基本とし、変更する場合や追加科目等が発生した場合にはコアカリキュラムとの対応を確認している。キャップ制については、教職課程履修者のみが受講できる教職科目については対象外となっているが、ナンバリングや履修モデル等の整備を通して、学科の卒業要件単位と教員免許状取得に必要な単位を無理なく、系統的に学べるよう配慮している。また既述のように、教職課程独自の GPA の活用も行っている。ICT 機器の活用については、教科教育法その他、各学科に設置されている科目においても、タブレットや学習ログを活用した授業が行われている。【資料1-1-2】

学生の学修状況の把握や教職指導については、既述した通り、毎年度実施している学生の履修カルテへの記入と教員による確認を通して、学生の履修状況や単位修得状況の把握を行っており、4年次の教職実践演習においては、教職ポートフォリオ検討会を通じて学生が4年間の学修成果を相互に確認する機会も設けている。【資料3-1-1】

教育実習に関しては、本学では教育職員になるという強い意志を持った学生（教員採用試験を受ける者）のみが参加できることとし、教育実習を履修するための条件を明確に設定した上で、教職課程委員会で教育実習参加の可否について判定を行っている。また、教育実習校については、近隣の学校の協力を得て、原則として母校以外での教育実習を実施し、早期からの現場体験を可能とするため、教育実習に行くことができる時期を3年後期以降としている。本学では、初等中等教育の現場での経験のある教員も複数おり、教職課程カリキュラム編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえるだけでなく、担当教員の現場での経験も活用し、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。【資料1-1-4】【資料1-1-5】【資料2-1-2】

各学科においては、それぞれの学科の目的と養成する教員像を踏まえ、教職課程科目とそれ以外の学科科目との系統性の確保を図りながら教職課程カリキュラムを編成している。

国際観光学科では、学科共通科目、コース科目、専門演習等から学科専門科目が構成されており、観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、グローバルツーリズムコースの3つの専門的なコースから成り立っている。教職課程については、中一種免（社会、英語、保健体育）及び高一種免（地理歴史、英語、保健体育）の免許状取得が可能となっている。国際観光学科では、広い意味での観光研究を基礎としながら、各自興味関心をもった領域の学修を深めることが教科に関する知識・技術の修得にもつながるという理念の下、学生は、学科共通科目やコースに設置されている「教科に関する専門的事項」を扱う科目や、観光に関する具体的・実践的な実習や演習、実技等の科目を通して、教員としての専門性を高めている。なお、基準項目3-2でも述べる通り、国際観光学科では、教職課程を履修しながら、各種資格の取得が可能となっており、教員免許状の取得を目指す学生の専門性を高めるカリキュラムが編成されている。【資料1-1-4】

社会福祉学科では高一種免（福祉）の免許状取得が可能となっており、卒業要件の学科専門科目は、学科共通科目、コース科目、学科自由選択科目、セミナー科目から構成されている。コースは、社会福祉士の国家資格取得を目指す「ソーシャルワークコース」、介護福祉士の国家資格取得を目指す「ケアワークコース」、精神保健福祉士の国家資格取得を目指す「メンタルヘルスコース」、その他の業界資格等の取得を目指す「コミュニティコース」の4コースから成り立っており、ナンバリング、履修モデル等の提示により系統的に履修できるようになっている。社会福祉学科においては国家資格要件の特質上、実習や演習が中心となり、アクティブ・ラーニングの要素が十分に満たされるため、学生は三福祉士のいずれの学修においても福祉教員に必要な知識や意識を向上させていくことができるようになっている。【資料1-1-4】

健康栄養学科では、これからの社会に生きる人々が必要とする総合的健康管理の構築に必要な教育研究を行うという理念の下、高度な知識や技能をもつ管理栄養士の養成を目的としたカリキュラムが編成、実施されている。卒業要件の学科専門科目は、基礎、基幹、関連と3つの分野に分かれており、個人、公衆、傷病・障害者の栄養計画の作成・指導に必要な栄養学の教育・研究を実現し、幅広い分野で活躍できる優秀な管理栄養士の養成のためのカリキュラムが系統的に整備されている。学生にとっては、資格取得のための講義や臨地実習を含む実習・演習の学修を深めることが、栄養教諭に必要な教科に関する科目の学修に直結しており、栄教一種免の免許状取得に必要な専門性を高める工夫がなされている。【資料1-1-5】

大学院人間社会学研究科では、基礎となる一種免許状を取得している学生に対して、人間社会学研究科観光学専攻、社会福祉学専攻において、教育職員免許状（専修免許状）の授与資格が得られる。具体的には、観光学専攻では、中学校教諭専修免許状（社会）、高等

学校教諭専修免許状（地理歴史）、社会福祉学専攻では、高等学校教諭専修免許状（福祉）の取得が可能となっている。【資料3-1-2】

大学院健康管理学研究科では、基礎となる一種免許状を取得している学生に対して、栄養教諭専修免許状の取得が可能となっている。【資料3-1-3】

#### 〔長所・特色〕

本学は、中学校ならびに高等学校の免許状取得を目指す教職課程が中心である為、教職課程カリキュラムの長所・特色としては、学科で取り組まれている専門性を高めるための実践的なカリキュラムが挙げられる。詳細については、基準項目3-2でも触れることとする。

#### 〔取り組み上の課題〕

取り組み上の課題としては、各学科に設置されている教科に関する専門的事項を扱う科目の担当教員と教職課程委員会との間に、連携が不足している点が挙げられる。具体的に言えば、教員免許状取得に関わる科目であるとの認識が必ずしも共有されていないため、授業内容の確認や精査が必要な科目が見られる。中学校、高等学校とも、学習指導要領ならびに教科書の改訂が行われているため、少なくともその点の情報共有は必要である。

#### <根拠となる資料・データ等>

【資料3-1-1】：「教職実践演習ポートフォリオ検討会」（教職実践演習学生提示資料）

【資料3-1-2】：『履修要項 2024（令和6）年度 長崎国際大学大学院〔人間社会学研究科〕』

【資料3-1-3】：『履修要項 2024（令和6）年度 長崎国際大学大学院〔健康管理学研究科〕』

### 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

#### 〔現状説明〕

実践的指導力育成と地域との連携に関する取り組みとして、まず本学は基本的な方針として、母校実習ではなく近隣校への教育実習を原則としているため、佐世保市教育委員会の協力の下、佐世保市近隣の学校（公立および私立）に教育実習生の受け入れ依頼を行い、実習校の確保を行っている。栄養教育実習については、以前より近隣小学校への配置を実施していたが、中・高の教育実習については2019年度より全面的に近隣校での教育実習に移行し、2024年度までに、佐世保市立の4中学校、長崎県立の7高等学校、そして系列校である私立の1高等学校、1中学校に学生を配属している。実習校には原則として各学生の教科教育法担当教員が訪問し、実習先の指導教員と連携を取りながら教育実習を実施している。【資料3-2-1】【資料3-2-2】

大学の授業内においては、教職課程全体として、教育実習の「事前・事後指導」「事前・事後指導（栄養）」、ならびに「教職実践演習（中・高）」「教職実践演習（栄養）」において、校長経験者や現職教員をゲストスピーカーとして招聘し、学生が、佐世保市の学校教育現場の現状や、学校と地域との連携、また教育実習に行く際の心構えに関する講話などを聞く機会を設けている。授業の実践的指導力に関しては、模擬授業の回を「教職実践演習」、ならびに各教科教育法の授業内でも複数回設けており、授業後の意見交換会も実施している。介護等体験では特別支援学校での体験前に特別支援学校での事前指導ならびに学校見学を行っており、体験後は、社会福祉施設を含め、「介護等体験 記録シート」を用いて各担当教員を交えた施設ごとの意見交換会を設けて振り返りを行っている。【資料3-2-3】【資料3-2-4】【資料3-2-5】

上記の他、各教科に関わる実践的指導力に関しては、人間社会学部国際観光学科では、地理・歴史・社会に関連して、博物館学芸員の資格取得に関わる科目「博物館実習A・B・C」などを通じて美術館や博物館等での見学・実習機会が多く設けられている。また英語については、国際観光学科の専門科目として、ネイティブ教員による英語科目や英語で開講される講義科目が設けられている他、グローバルツーリズムコースに所属する学生には4年間で2度の語学留学が義務付けられている。保健体育については、「公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者」や「健康運動実践指導者」等の健康・スポーツに関わる指導、地域スポーツのマネジメントに関わる資格の取得や、近隣中学校の部活動指導員や高校等での外部指導者、学童保育指導員としてのスポーツ指導への参加、また地域の幼児、児童に向けたイベントへの参加の機会を通じて実践的指導力の育成が図られている。【資料1-1-4】【資料3-2-6】

人間社会学部社会福祉学科では、国家資格養成指定科目を中心とした学科専門科目の実

実践的教育科目として、「社会福祉士受験資格」の指定科目では「ソーシャルワーク実習（社会）Ⅰ・Ⅱ」、「精神保健福祉士」の指定科目では「ソーシャルワーク実習（精神）Ⅰ・Ⅱ」、「介護福祉士受験資格」の指定科目では「介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を設置し、学生が福祉現場で実際の支援を経験することにより、4年間を通して福祉の専門知識を学べる機会を設けている。社会福祉学科においては、これら各国家資格養成指定科目の実習関連科目を通して、高等学校の福祉科教諭として求められる実践的指導力の育成が図られている。【資料1-1-4】

健康管理学部健康栄養学科では、学科専門科目の実践的教育科目である臨地実習Ⅰ（給食の運営）を学校現場で行うことによって、児童生徒の特徴を理解し、4年次の栄養教育実習に必要な知識を学べるように配慮している。また、「給食の時間」の指導を通して、学習指導案作成の学びを深め、栄養教諭に必要なスキルを身に付けることで、実践的指導力の育成が図られている。【資料3-2-7】

#### 【長所・特色】

本学は公私協力型の大学として設立されたという経緯もあり、上記以外にも、教職課程委員会に所属する複数の教員が、佐世保市や長崎県、ならびに近隣縣市町村等の教育関連会議の委員や学校評議員、校内研修等講師を務めるなどしており、積極的に地域との連携を図っている。また、小学校から高等学校まで、現場での教員経験のある専任教員ならびに事務職員が多数在籍していることも、学生の実践的指導力育成においては強みと言える。

#### 【取り組み上の課題】

学生の実践的指導力育成と地域との連携についての課題としては、まず、教育実習について、受け入れ校の確保が難しい点が挙げられる。特に保健体育の免許状取得希望者の増加に伴い、近隣学校のみでの教育実習が困難となっており、実習先の確保が喫緊の課題である。そのため、近隣校を母校とする一部の学生には、母校実習を許可するなどして対応している。また、介護等体験や教育実習などの実習先からは、学生の実習態度や実習に臨む姿勢、また生徒や利用者の方への対応についていくつか指摘がなされており、学生指導の徹底が課題として挙げられる。この点は当該学生の問題だけではなく、今後の教育実習先の確保等にも関わるため、学外実習に向けた事前指導の内容や指導体制の見直しと指導の徹底が急務である。

#### <根拠となる資料・データ等>

【資料3-2-1】：教育実習受け入れ依頼状

【資料3-2-2】：栄養教育実習受け入れ依頼状

【資料3-2-3】：事前・事後指導（中・高）シラバス

【資料3-2-4】：事前・事後指導（栄養）シラバス

【資料3-2-5】: 介護等体験 記録シート

【資料3-2-6】: 大学ホームページ TOPICS (随時更新)

【資料3-2-7】: 『長崎国際大学 健康管理学部健康栄養学科臨地実習細則』

### Ⅲ. 総合評価

基準領域1のうち基準項目1-1「教職課程教育の目的・目標の共有」に関しては、本学の教職課程では2000年の開学以来、学校法人九州文化学園の精神と本学の建学の理念である「人間尊重」を基本理念に、よりよい人間関係とホスピタリティの探究・実現、ならびに文化と健康を大切にし、社会の建設に貢献する教員の養成を目的としてきた。とりわけ、本学の教育活動の特色である「茶道文化」で培われるようなホスピタリティ精神と思いやりをもった教員の養成に取り組んできた。また近年では、学士課程の学修において全学的に「ホスピタリティ・ルーブリック」という指標も用いつつ、本学が目指す教員像に向けた教員養成に努めてきた。また、基準項目1-2「教職課程に関する組織的工夫」に関しては、教職課程を設置する各学部学科の教員及び事務職員から構成される教職課程委員会が、教職課程オリエンテーション、履修カルテ入力会、定期的な履修状況の確認、介護等体験、教育実習、教職実践演習、教員採用試験対策などについて、きめ細やかな学生指導を行っている。したがって、基準領域1で求められている「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」は実現されていると評価することができる。

基準領域2のうち基準項目2-1「教職を担うべき適切な学生の確保・育成」に関しては、高校生対象のオープンキャンパスや、在学生及び新入生対象の教職課程オリエンテーションなどを通して、教職の意義や魅力を伝え、毎年度一定数の履修者を確保している。また、教員免許状を取得するにふさわしい人材の育成に関しては、教職課程委員会の教員が各学科のゼミ担当教員等とも連携を図りながら、個々の学生の実態把握と個別対応に努めている。くわえて、毎年度、教職課程を履修する学生には履修カルテの入力会を設定し、教員に必要な資質能力の項目における自己評価のレーダーチャートなども活用しながら、教員としての資質能力の確認と省察を行わせている。また、基準項目2-2「教職へのキャリア支援」に関しては、毎年度始めに実施する教職課程オリエンテーションで教職へのキャリア意識の向上を喚起するとともに、教員採用試験に関する情報発信や教員採用試験対策など個々の学生の状況に対応したきめ細やかな支援を行っており、教員免許状取得者の教員就職状況も割合としては少なくない。取得希望免許種による学生数の偏りや、教職課程を履修する学生の基礎学力の底上げなど課題はあるが、基準領域2で求められている「学生の確保・育成・キャリア支援」は実現されていると評価することができる。

基準領域3のうち基準項目3-1「教職課程カリキュラムの編成・実施」に関しては、教職課程を設置する各学部学科の目的と養成する教員像を踏まえ、教職課程科目とそれ以外の学科科目との系統性の確保を図りながら教職課程カリキュラムを編成している。中一種免（社会、英語、保健体育）及び高一種免（地理歴史、英語、保健体育）の免許状取得が可能な国際観光学科では、広い意味での観光研究を基礎としながら、学科共通科目や3

つの専門的なコースに設置されている「教科に関する専門的事項」を扱う科目、実習・演習・実技等の科目の学修を通して、実践的指導力と専門的スキルを身に付けた教員の養成がなされている。高一種免（福祉）の免許状取得が可能な社会福祉学科では、三福祉士の資格に関わる分野の研究を基礎としながら、学科共通科目や国家資格を目指す3つのコースとその他の業界の資格等の取得を目指す1コースに設置されている「教科に関する専門的事項」を扱う科目、実習・演習等の科目の学修を通して、高いコミュニケーション力を有した福祉科教員の養成がなされている。栄教一種免の免許状取得が可能な健康栄養学科では、管理栄養士の養成を目的としたカリキュラムが中心となっており、基礎、基幹、関連の3つの分野から成る学科専門科目によって「教科に関する専門的事項」を学修することを通して、専門性の高い栄養教諭の養成がなされている。さらに、これら3つの学科に対応した大学院の修士課程3専攻では、教科に関するより高度な専門的事項の学修により、それぞれの免許種の専修免許状が取得可能となっている。また基準項目3-2「実践的指導力育成と地域との連携」に関しては、公私協力型の大学として設立された本学の特色として、教職課程委員会に所属する複数の教員が長崎県、佐世保市ならびに近隣縣市町等の教育関連会議の委員等を務めるなど積極的に地域との連携を図っている他、専任教員・事務職員のなかに多数の小中高の教員経験者が在籍するなど、学生の実践的指導力育成において強みとなっている。くわえて、同一法人内に小中学校、高等学校も併設されており、学生の学校体験活動や実習等の機会も多く確保することができている。したがって、基準領域3で求められている「適切な教職課程カリキュラム」は実現されていると評価することができる。

総じて本学における教職課程は、大学全体の建学の理念である「人間尊重」を基本理念に、その養成する教員像を各学科において明確にしており、専門科目の学修と教職課程科目との有機的連携を図ることによって特色ある教員を輩出してきた。教職課程に関わる教職員は、本学が目指す教員養成理念の共通理解に基づいて協働的な取り組みを行っており、毎年度ほぼ安定した教職課程履修学生を確保した上で、日常的な学修指導からキャリア支援に至るまで教員となるために必要な事項について個々の学生に対応したきめ細やかな指導を徹底している。全体として、本学は教員養成のための適切な教職課程カリキュラムを設置していると評価することができる。

2004年に第1回の卒業生を世に送り出してからこれまでに、多くの卒業生が教員免許状を取得し、そのなかには実際に長崎県のみならず九州各地、さらには北海道、関東甲信越など日本各地でも教員として学校教育に携わっている者が少なからず含まれている。地域社会における学校教育の状況はますます厳しさを増しており、そのことは全国有数の過疎県である長崎県においてはさらに深刻な問題となっている。そうした長崎県の県北地域

に立地する唯一の四年制私立大学として、教員養成を通じた社会貢献を継続することができるよう、今後とも教職課程の質保証と改善向上に努めていく必要があると認識している。

#### IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

- 2025年4月 第1回教職課程委員会
- ・令和7年度自己点検評価報告書の作成の確認
  - ・アクションプランの実施状況の点検
  - ・令和4年度自己点検評価報告書の修正箇所の確認
- 2025年6月 第2回教職課程委員会
- ・自己点検評価報告書の作成プロセスと作成スケジュールの確認
  - ・執筆担当者の決定
- 2025年7月 自己点検評価の実施（～10月）
- 2025年9月 第3回教職課程委員会
- ・作成スケジュールの再確認と各担当者への執筆依頼
- 2025年10月 各担当者への修正依頼
- 2025年11月 第4回教職課程委員会
- ・ファーストドラフトの修正点の確認と修正依頼
- 2025年12月 セカンドドラフトの確認
- 2026年1月 第5回教職課程委員会
- ・自己点検評価報告書の完成に向けたスケジュールの最終確認
- 2026年2月 最終ドラフトの確認
- 2026年3月 第6回教職課程委員会
- ・今後の承認手続きの確認
  - ・アクションプランの作成に向けた確認

## V 現況基礎データ一覧

令和7年5月1日現在

法人名 学校法人九州文化学園					
大学・学部名 【学部】 長崎国際大学 人間社会学部、健康管理学部 【大学院】 長崎国際大学 人間社会学研究科、健康管理学研究科					
学科・コース名（必要な場合） 【学部】 国際観光学科、社会福祉学科、健康栄養学科 【大学院】 観光学専攻、社会福祉学専攻、健康栄養学専攻					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					【学部】 309名 【大学院】 12名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					【学部】 274名 【大学院】 7名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					【学部】 15名 【大学院】 8名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					【学部】 6名 【大学院】 0名
④のうち、正規採用者数					【学部】 3名 【大学院】 0名
④のうち、臨時的任用者数					【学部】 3名 【大学院】 0名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他(助手)
教員数	21	15	18	8	6

## 【学部】

「各教科の指導法」及び「教育の基礎的理解に関する科目等」

学部	免許状	必要教職専任教員数	教職専任教員数
人間社会学部	中学校教諭一種免許状 (社会・保健体育・英語)	2	4
	高等学校教諭一種免許状 (地理歴史・保健体育・ 福祉・英語)		
健康管理学部	栄養教諭一種免許状	2	3

「教科に関する専門的事項」

学部・学科	免許状	必要教職専任教員数	教職専任教員数
人間社会学部・ 国際観光学科	中学校教諭一種免許状 (社会)	4	4
人間社会学部・ 国際観光学科	中学校教諭・高等学校教 諭一種免許状(保健体育)	3	5
人間社会学部・ 国際観光学科	中学校教諭・高等学校教 諭一種免許状(英語)	3	3
人間社会学部・ 国際観光学科	高等学校教諭一種免許状 (地理歴史)	3	3
人間社会学部・ 社会福祉学科	高等学校教諭一種免許状 (福祉)	4	4

## 【大学院】

「教科及び教科の指導法に関する科目」

専攻等	免許状	必要教職専任教員数	教職専任教員数
人間社会学研究科・ 観光学専攻	中学校教諭専修免許状 (社会)	4	4
人間社会学研究科・ 観光学専攻	高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)	3	3
人間社会学研究科・ 社会福祉学専攻	高等学校教諭専修免許状 (福祉)	4	4
健康管理学研究科・ 健康栄養学専攻	栄養教諭専修免許状	3	3